

福岡市議会議員 しるみずき

REPORT

号外
保存版

〒810-0062 福岡市中央区荒戸2丁目2-8 1201号

TEL/FAX:092-711-3246

<http://www.mizuki46.jp/>

発行者:福岡市議会議員 水城 四郎



新型インフルエンザ発熱相談センター (電話相談窓口) を設置しました。



新型インフルエンザに感染した可能性のある方、「急な発熱」や「せき」などのインフルエンザのような症状がある方は、まず発熱相談センターに電話で相談してください。

対応時間	連絡先	電話番号
18時から21時 (土・日・祝日を含む)	中央保健所	092-761-7361
9時から18時 (土・日・祝日を含む)	東保健所	092-645-1078
	博多保健所	092-419-1091
	中央保健所	092-761-7328
	南保健所	092-559-5116
	城南保健所	092-831-4261
	早良保健所	092-851-6012
	西保健所	092-895-7073



新型インフルエンザが
国内で感染拡大中!



<感染予防方法>

- 十分な栄養と睡眠をとり、体力や抵抗力を高めましょう。
- 帰宅後はうがい、手洗いを徹底しましょう。
- 毎日熱を測りましょう。
- 集客施設や繁華街などの人ごみへの外出を控えましょう。
- 咳エチケットを心がけましょう。
- 加湿器などで空気の乾燥を防ぐことや、部屋の換気も大切です。

※咳エチケットとは?

- せき、くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りのひとから顔をそむけましょう。
- 使用後のティッシュはフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。
- 熱、せき、くしゃみなどの症状のある人は正しくマスクを着用し、感染防止に努めましょう。



新型インフルエンザが全世界的に発生すると、国内外の流通が止まり、生活必需品が不足する恐れがあります。

- ・流行期に外出しなくても済むように、2ヶ月分くらいの食料品・水・日用品を備蓄しておきましょう。
- ・不織布製のマスクも備蓄しておきましょう。

知っとうと!?

本市で新型インフルエンザ発症したとき、搬送先はこども病院!!(1類2類感染症指定病院)

●私は新型インフルエンザ蔓延の危機を事前に予測、一年前より研究し、対策を議会で再三訴える!!

通常の季節インフルエンザならば病院で診察を受けられますが、新型インフルエンザの場合は、一般病院ではなく、唐人町のこども病院に併設されている感染症センターに搬送されます。ところが、新型インフルエンザは飛沫・空気感染をし、現在世界では、体力の無い子どもの感染により、死亡する例が出ました。

この危機について、昨年より私は市議会で訴え続けてまいりました。昨年6月9日議会では、私が「こども病院と感染症センターが併設されているのは、新型インフルエンザ発症時に、子ども病院内で感染が拡大する恐れがある!」と指摘。市当局は「感染症患者は外気圧より低く設定した陰圧室で入院するので外部感染拡大は無い」と答弁。しかし、私は「患者を搬送する際や院内感染により、こども病院に入院している体力のない母子や、周辺地域住民への拡大リスクが高い。更には、ウイルス学感染症学者の第一人者で国立感染症研究所WHOの田代・岡田両教授は、『海外で発生したSARSで陰圧室などの近代設備を持つ大病院の一部を感染者専用としたが、人の動きを完全に遮断することは難しく、院内感染を断ち切るのは困難』との過去の実例あり。そこでこども病院への院内感染の可能性は非常に高く、こども病院を移転し、感染症センターとの分離が急務であると再三当局に市議会にて指摘をして参りました!

危ないばい!

こんな病院は福岡だけ!
前代未聞! 全国で福岡だけが感染症センターとこども病院の併設という問題!
住民の命を守るため、その危険を唯一ひとり私は議会で指摘し、改善要求をしてまいりました!

唐人町のこども病院は、感染症センターに併設されています! こんな状況は全国で唯一福岡のみです! 福岡で新型インフルエンザ感染が発生した場合、こども病院・感染症センターに搬送されます。しかし、こども病院の病床不足で、感染症の部屋まで子どもが使用している現状があります! 更に現在の感染症の医療設備は、●病床が24床、●担当医師がたった1名のみ

私は、「新型インフルエンザの感染拡大に対応できる状況ではない! 感染症センターは、既に法の改正により、本来ならば県と国が国立病院などの高次医療で担わなければならない。即ち、感染症病院は法に基づき県に返上し、こども病院の移転を待たずに、両施設を一刻も早く分離すべきである」と昨年9月議会から指摘して参りました。ところが未だ、市は県に返上すべきことは分かっているにも関わらず、具体的な動きを示さない危機管理の低さ。共産党をはじめとする反対政党は、「こどもの命が危ない」と言うも、新型インフルエンザのこどもへの院内感染の危機には一切触れず、病院労組を守る為なのか、こども病院の移転に反対するのみ。県は年間たった2千万円の補助金を提出するのみで、あとの費用は市の税負担。さらには新型インフルエンザの蔓延が目前に迫っており、感染症センターとこども病院の分離・移転は危機管理の観点から一刻を争う問題だと、平成21年3月18日総会質疑で吉田市長に改善を強く要求しました!

大丈夫とかいえない福岡市!?



市の危機管理意識の甘さを今年3月議会でも再び指摘!!
皆様の命を守る為に!



強毒性に変化したら?

昨年10月今年2月と『みずきレポート』でもお知らせして参りました通り、新型インフルの危機を、ただ私一人だけが、昨年6月9日議会で市政に正した結果、市はようやく今年2月「福岡市新型インフルエンザ対策行動計画」を策定しました。しかし、市が公表していた被害想定数がアジア風邪を基準とした最低限のものと発覚。一方、世界はもちろん、厚労省でも、スペイン風邪を基準とし試算した新型ウィルスの最大被害を想定しています。3月議会で、水城「アジア風邪レベルの被害想定では、最悪の事態への危機管理とは言い難い。分かっていますよね? 今やっている事前対策は新型インフルエンザですよ。スペイン風邪を基準とした最大の被害を想定し対策訓練も含め、早急な対応をとるべきだ!」と危機管理の甘さを再度指摘、改善要求! 吉田市長答弁「水城議員のおっしゃる通りです。」に議場どよめき。しかし市の具体的な行動はとられていなかった。

福岡市が公表していた市民への影響想定 (アジア風邪から試算)

入院患者数	約800~約5200人
死亡者数	約300~約1600人



厚労省が発表したスペイン風邪の数値から算出した、福岡市民への最大影響想定

入院患者数	約800~約2万8百人
死亡者数	約300~約6千4百人

新型インフルエンザ警戒レベルは瞬く間にフェーズ5にあげられ、世界的には感染はおさまっておらず、パンデミックの危機はまだまだ去っていません。このような状況下で、感染所センターとこども病院の分離・移転は、新型インフルエンザ拡大の危険性とともに議論し、早急に対策を取らなければならない問題です。こども病院の移転は、いよいよ迫る新型インフルエンザ拡大から地域の住民、こどもの生命と財産を守るという観点からであり、一刻も早く対策をとることが重要であるというのが、私の政治判断です。医療先進国で感染症センターと小児医療を扱う病院の併設はあってはならないことなのです。

皆様方におかれましては、ただ事態を静観する『冷静さ』ではなく、事態を見極め具体的に準備をする『冷静さ』が必要です。公助・互助・自助の観点で、パンデミックが起らないことを祈りつつも、備蓄や予防など、確実な対策をとられますようお願い申し上げます。

お手数ですが、ご意見がございましたら下記の電話・FAX番号までよろしくお願いいたします。

TEL/FAX : 092-711-4725